



第1学年通信 No.7
鹿嶋市立大野中学校
2011, 6, 22(水)

福祉体験学習を行いました。

6月9日(木)に福祉体験をおこないました。講話として、小児麻痺により肢体不自由になられた中津智宏先生のお話を聞きました。

中学校に入り、障がいがありながらも運動部に入部した体験やいじめや友人関係に悩んだ経験、高校での信頼できる仲間や先生との出会いなど、中学生にとって身近に感じられる話をしてくださいました。講話の中に「人との関わりの大切さ」、「中学校生活を大切に」、「健常者も障がい者もお互い支え合っていること」などたくさんのメッセージをいただきました。また、鹿嶋市社会福祉協議会及びボランティアの方々のご協力により、アイマスク体験、インスタントシニア体験、車椅子体験の3つの福祉体験を実施しました。15人のボランティアの方にお手伝いいただき、充実した体験をおこなうことができました。



生徒の感想から



「車いす体験を通して、足の不自由な方々の気持ちを知ることができました。特に印象に残ったのは段差のある通路を通ったことです。後ろ向きになって降りるのがものすごく怖かったです。」 3組 中山茉莉

「車いすに乗る前は『すごく楽しそうだな』

と思ったけれど、乗ってみたら緊張したし、『怖い』と感じたりしました。いろいろな段差があったり、降りるときや上るときに持ち上げられたときは、とてもびっくりしたり怖かったです。車いすに乗っている人がどんな気持ちで毎日を過ごしているのかが、少し分かりました。」

2組 小沼 鈴愛



「インスタントシニア体験では、80才くらいになる体験をしました。手の感覚がにぶったり、関節がまがらなかったり、白内障になったりして、階段を上り下りするのが大変でした。」もし自分が80才くらいになったら周りの人は助けてくれるのかな?と思いました。これからはお年寄りが困っていたら手をかけるようにしたいと思います。」 4組 日向寺 健太



「体験を通して、お年寄りの大変さや不便さが分かりました。私の家にも、耳の遠くなった祖父がいるので、この体験を通して耳が遠くなる不便さや、手足が自由に動かせない大変さが分かりました。今回の体験活動で学んだことを大切にしていきたいと思います。」 1組 吉田ちはる



「アイマスク体験をしたとき、目の見えない人は、階段の上り下りや溝があったりする場所では、怖い思いをするんだなと思いました。もしもそういう人がいたら、手を貸してあげられたら いいなと思いました。」 3組 大木虹朋

「アイマスクは初めて体験しました。アイマスクをつけると先がどうなっているのか分からなくて怖かったです。特に階段ではまだ段が残っているのかいないのかが分かりませんでした。介護するときには、いろいろなことを指示しないといけないことも分かりました。これからは目の不自由な人に声をかけたり手伝ったりしたいと思いました。」 2組 森田颯斗

「中津さんのお話を聞いて、私は体に障がいがあっても普通の人と変わらないんだなと思いました。話を聞くまでは、障がいがあると不便な所がたくさんあるのではないかと、ずっと思っていました。でも、不便な所はたくさんあるけれど、自分のことは自分できちんとやっているという話を聞き、すごいと思いました。」 5組 田中麗那



来週は期末テストです。

6月28, 29日に、期末テストが行われます。中間テストは5教科のテストでしたが、今回は音楽、美術、技術・家庭、保健体育の4教科もおこなわれ、9教科で実施されます。教科数が多いばかりでなく、範囲も広がります。計画的に学習を進めて下さい。

なお、大野中では期末テストの2日前から部活動の練習はおこなわず、テストに向けた準備期間としています。(今回は6月26日(日)、27(月)の部活動はおこないません。また、

6月28日（火）は15：00下校予定です。）